

高水温耐性ノリ品種の養殖試験を実施しています

平地の山の紅葉も進み、沿岸部ではノリ養殖の盛んな時期となりました。各地の海面ではブイとロープでできた養殖施設にノリ芽を着生させたノリ網を張り込み、養殖が行われています。本県の漁業生産量のうち、ノリ養殖は約30%を占める重要な漁業種類ですが、近年は気候変動による海水温の上昇により、養殖開始時期の水温が高いことが問題となっています。

ノリ養殖の工程は、ノリ芽を育てる育苗期、ノリを伸ばして刈り取りを繰り返す養成期に分かれています（図1）、岡山県沿岸ではこの養成期の開始は、海水温が20℃を下回る時を基準としています。なぜなら、海水温が高いとノリ芽が健全に生長しないからです。しかし、40年前と比較すると、20℃を下回る時期が約1週間遅くなっています（図2）。このため、養殖の開始が遅くなる

ほか、海水温が降下せずに停滞する年にはノリ芽が傷んでしまい、その後の養殖に大きな影響を与えることがあります。

そこで、水産研究所では、平成26年度から高水温に強いノリ品種の開発に取り組んでいます。ノリは15℃程度で最もよく生長するとされていますが、実験室内で20℃以上の海水で培養し、生き残ったものを選抜する方法で、高水温でも生長の良い品種の候補株を作出しました。

これらの候補株は、実験室内では高水温に強い特性を示しましたが、実際に海で養殖した場合にもこの特性が現れるかどうか、生長性は十分かなどを養殖試験で確認する必要があります。現在のノリ養殖は長年培われた専用の施設、器具、船舶を用いるもので、水産研究所が独自で実施し難いことから、ノリ養殖を営む漁業者の方に作業

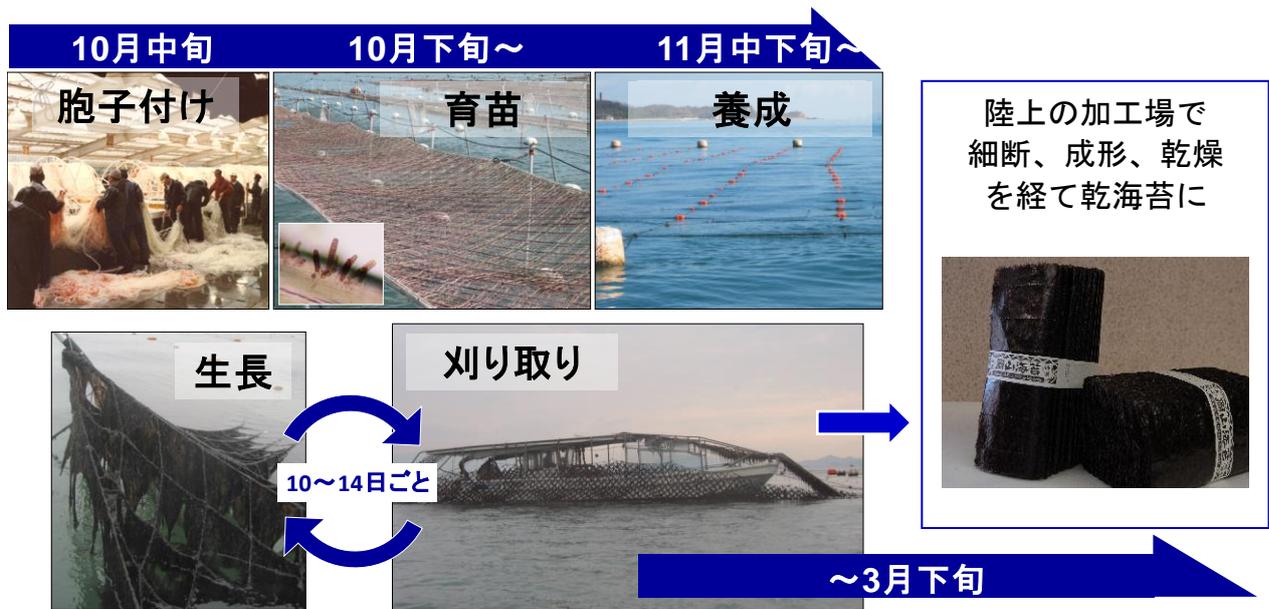


図1 ノリ養殖の行程

をお願いして養殖試験を実施しています。

令和元年度の試験品種は、県や国立研究開発法人 水産研究・教育機構が開発した品種候補株、対照品種などで、定期的に漁場からノリを採取し、生長性や健全性（縮み、くびれ等の変形の割合）を調査しています。昨年度の調査では、同機構が開発した品種候補株は高水温期に健全性が高いという結果が得られました。

品種の開発は一朝一夕にはいきませんが、地道に調査を続けていきたいと思えます。（開発利用室：清水）

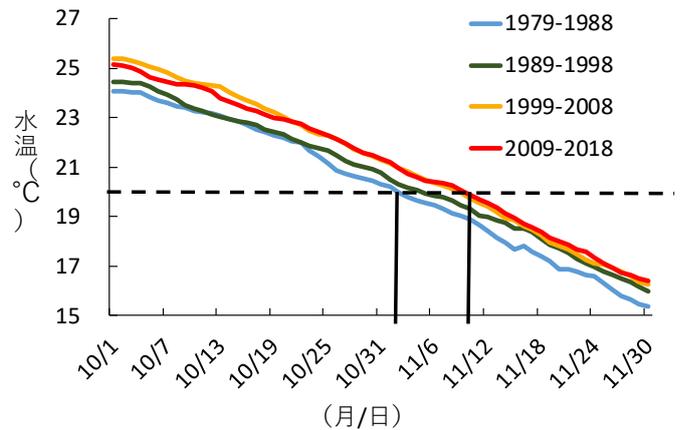


図2 牛窓沖の水温変化
(10/1~11/30)

-----: 20°C
20°Cを下回った日は 1979 年から 1988 年の期間では 11/3 ですが、2009 年から 2018 年の期間では 11/10 でした。